

令和3年度第1回みやぎ21健康プラン推進協議会

日時：令和3年8月30日（月）

午後3時30分から午後4時30分まで

場所：県行政庁舎4階 庁議室

〈出席委員〉

泉谷委員，板橋委員，小坂委員，片倉委員，金田委員，佐々木委員，佐藤委員，高橋委員，
中鉢委員，寶澤委員

〈欠席委員〉

薄井委員，及川委員，菅原委員，辻委員，平塚委員

〈司会〉

第1回みやぎ21健康プラン推進協議会を開催いたします。

開会に当たりまして、保健福祉部梶村副部長より御挨拶申し上げます。

〈梶村保健福祉部副部長〉

皆さんこんにちは。初めまして。

本日は小坂会長はじめ、御多忙・御多用のところ御出席いただきまして誠にありがとうございます。

県では、平成29年度に第2次みやぎ21健康プランの後期計画を定めまして、産学官連携による健康づくりの県民運動、スマートみやぎ健民会議を核として推進してまいりました。この県民運動には、現在800を超える企業団体様に御参加いただいております。

しかしながら、本県のメタボ及びその予備群の割合は、全国ワースト3位以内の状況が12年間継続しております。

併せて、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う、生活習慣の変化による健康への影響が心配されているところでございます。

県ではこのような課題に対応しまして、県民無関心層への働きかけの強化や、コロナ禍においても健康づくりに取り組んでいただけるよう、普及啓発に取り組んでまいりたいと考えてございます。

本日は第2次みやぎ21健康プランの今後の進め方等につきまして、御審議をいただくことになってございます。

委員の皆様には引き続き、県民の健康づくりの推進のために、お力添えをいただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

よろしく申し上げます。

〈司会〉

本日の出席者の紹介につきましては、お配りさせていただいております名簿で代えさせていただきます。

なお、会長・副会長につきましては、事前の互選の結果によりまして、会長に小坂先生、副会長に板橋先生が選任されておりますので御報告いたします。

それでは早速議事に入りたいと思います。ここからの進行につきましては、小坂会長にお願いいたします。

〈小坂会長〉

今回、司会をさせていただきます、小坂でございます。

私もコロナの中で7キロぐらい太って、テレビで見る時はすっきりしているのだけれど実物見るとデブだってみんなに言われるので、頑張っていきたいというふうに思っています。逆に言うとこれは守りたくても守れないというそういう人の気持ちがわかるので、そういう意味では県民に寄り添った対策をいかにやっていくかということを考えるということでは良いのかなと思っております。

それでは、今日副会長がいらっしゃいますので、副会長からも御挨拶いただけますか。

〈板橋副会長〉

副会長を務めます板橋でございます。よろしくお願いいたします。

昨年、今年と皆さん御存知のようにコロナ感染拡大で、県医師会の方も大変な状態です。研修会等がストップしておりますし、会議もリモートになったり、延期になったりしております。あと何年続きますかわかりませんが、薬ができれば落ち着くだろうと思っております。いずれは多分コロナに打ち勝つことができるだろうというふうに思います。

そんな中で、宮城県の健康プランをもう1年延ばすということでございますし、私も宮城県民の健康を維持、増進できますように、行政機関とともに一生懸命頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

〈小坂会長〉

今回初めて委員に就任された方がいらっしゃると思うのですが、全国健康保険協会宮城支部の佐藤昌司さん、今回、初めてだと思っておりますので、簡単に自己紹介をいただければと思います。

〈佐藤委員〉

協会けんぽ宮城支部の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。今年4月に異動してまいりました。コロナのために、いろいろと事業がストップしているところがありまして、やりにくいですが、いろいろ意見など出させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

いたします。

〈小坂会長〉

よろしくお願いします。

宮城県栄養士設置市町村連絡協議会会長でいらっしゃる高橋さんお願いします。

〈高橋委員〉

皆さん、はじめまして。こんにちは。宮城県栄養士設置市町村連絡協議会会長をしております、名取市保健センターの管理栄養士の高橋といたします。よろしくお願いいたします。私も去年から会長ということで、今年 2 年目なのですが、これを機会にまた宮城県といろいろ御相談しながらこのプランに携われたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〈小坂会長〉

よろしくお願いします。佐々木さんいかがですか。

〈佐々木委員〉

佐々木です。よろしくお願いいたします。

看護協会の副会長をやっております。昨年度から、前回から、やらせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

〈小坂会長〉

今回、宮城県学校保健会理事の平塚さんも新任ということですが、今回御欠席ということになりますし、上から 4 番目の宮城県食生活改善推進協議会の及川理事の方も、今回、御欠席ということでございますので次回にでも御挨拶いただきたいと思えます。

それでは審議に入らせていただきます。

本日の議事となっている第 2 次みやぎ 21 健康プランの計画期間の延長等について、事務局より説明をお願いいたします。

〈事務局〉

資料 1 により説明

〈小坂会長〉

委員の皆様いかがでしょうか。国の方も 1 年延長ということで、致し方ないところもあるのですが、多分、片倉委員は色々聞きたいことがあるのではないかと思うのですが。

〈片倉委員〉

片倉です。言いたいことということではないのですが、やはり保健事業と介護予防の事業との一体化ということで、2025年までということ、延長になっていますので、それと合わせて、この計画というのは妥当だと思います。

〈小坂会長〉

5年先までコロナ禍が終わらないのではないかなというような話も、シミュレーションをしているメンバーが話していて、このままずっとこの健康プランの自主的なところがないようだ、いかにコロナ禍で、この保健事業を進めるのかということも考えていただいて、県の方でも考えていただいているようなので、そういうものも参考にしながら各市町村でも頑張ってもらいたいということだと思いますが、オンラインの先生方で何か今のことに関しまして、質問、あるいは御意見等ありますでしょうか。よろしいですか。

それではこの件につきましては、了承いただいたということにいたします。

今回御欠席の辻教授が次期計画の研究班の代表をされていて、今各委員の方で計画の目標数値を設定しているところなので、その辺の数値を見ながら、宮城県としても、一緒にその辺も進めていければというふうに思っております。それではこの件については終わりにします。

次「4 報告」ですね。報告事項の(1)第2次みやぎ21健康プラン、有識者ワーキングについて事務局より説明をお願いいたします。

〈事務局〉

資料2により説明

〈小坂会長〉

ありがとうございました。大変な中でワーキング3回もということで、お忙しい寶澤先生に御迷惑をおかけして誠に申し訳ないと思っておりますが、今回、このワーキングの構成員の中で、御出席賜っている金田委員と寶澤先生から御挨拶をいただきたいと思います。金田委員いかがですか。昨年も御参加されたと思うんですが。

〈金田委員〉

薬剤師会の金田です。前任者からの引き継ぎということで、私自身はまだ参加がありませんので、今後勉強しながら携わっていきたいと思います。よろしく申し上げます。以上です。

〈小坂会長〉

それでは寶澤先生がいれば鬼に金棒というところで安心しておりますが、先生から御挨拶をお願いします。

〈寶澤委員〉

プレッシャーがすごくきついで、ドキドキしておりますけれど、こちらの有識者のワーキング、前日もやらせていただいております。今回、おそらくコロナが入って、普通に生活習慣指導をやって、今までのイベントがどうだったということと合わせて、どういう評価方法になるのか、どういうふうに評価していくのかというところが、恐らく論点になるのかなというふうに思っていました。その評価をしっかりと次の10年に向けて進めませんので、先生方と相談しながら、どういうふうに、評価指標の方を考えていったらいいのか等も含めて、皆で和気あいあいと議論できればと思っております。よろしく願いいたします。

〈小坂会長〉

前回は、回収率が極めて高かった状況があるので、いかにそれを引き継ぐのかということが大切だと思います。今日も午前中、介護関係の国の調査の会議をやっていたのですが、まだ国の方は郵送調査を変えるつもりはないようだったのです。一方で、宮城県の介護ワーキングの方では、介護施設の調査を、メールとグーグルフォームで、2週間で600幾つの施設全部から回答いただいています。入力が必要がないということもあったので、できる方、若い人とかであればそういったところも検討していただくと、回収率の向上あるいは事務作業の簡略化みたいなものに繋がると思いますので、御検討いただいて、県庁の保健関係の方もいろいろ忙しいでしょうから、その中で、省力化ということも考えていただければよいのかなというふうに思っております。

ほかの皆様方から、このワーキング設置に関して、何かコメント等ありますか。よろしいですか。それではこの報告についても、終わりにしたいと思います。

続いて報告事項の2で、第2みやぎ21健康プラン関連事業ということで事務局より説明をお願いいたします。

〈事務局〉

資料3により説明

〈小坂会長〉

それでは、画面の方を御覧ください。

・・・動画等放映・・・

〈寶澤委員〉

この CM、いつ頃流れていたのですか。

〈事務局〉

仙台放送で流しましたが、日によって時間は変わり、朝早い時間帯からゴールデンタイムまで様々でした。

〈小坂会長〉

ちょっと聞いてみます。委員で今のを見たことがある方は、どれ位いますか。挙手をお願いします。結構皆さん見えていますね。ありがとうございます。私は今回初めて見ました。テレビ・ラジオを見ないので。何人か手が挙がりましたが、広報活動のやり方についても、若い人達に対してどうしたらよいのか。今回 YouTuber とコラボしたということですが。

それでは、皆さんの方からコメントをいただくのですが、まず最初に、これはもうナトリウムといえば寶澤先生ということで資料 3-1 の特にこのナトカリの話とか、少しコメントをいただきたいと思います。

〈寶澤委員〉

今日、関係者もこの会議に多いのですけれど、ナトリウムとカリウム、塩を控えたら血圧が下がるとか、野菜を食べると健康全般によいという話はもう皆様わかってる話なのですが、なかなかどちらも測定ができないのが辛かったところです。カゴメさんのところにちょっと書いてあるのが、東北大学と、オムロンヘルスケアと共同で、ナトカリ計という、尿の中のナトリウムとカリウムのバランスを測ることができる機械を登米市の健診会場に持ち込みまして、佐々木秀美先生が一番の仕掛け人なのですが、測定をやらせていただいて、もう今年で 5 年目になります。5 年連続で測定していますと住民の方が、どうやってバランスをとれるのかみたいなのがわかってくる。今まで栄養調査をしないと、きっちり栄養評価しないとわからなかった塩とか野菜の部分が少しわかりやすくなってきたので、これをきっかけに、塩とか野菜とかにもう少し興味を持っていただけるといいなと思いながらやっております。カゴメさんが、県庁の食堂で、ナトカリフェアとかやっていたりもしておりますので、こういった測定、COI そのものは今年で終わるのですが、県とも相談しながら、何か、このナトカリを測れる場所を少しずつ増やしていけないかというふうに今考えているところです。

〈小坂会長〉

貴重な情報ありがとうございます。これについて佐々木副会長の方から何か、いかに県下に広げるかみたいなことについても何かありますか。

〈佐々木委員〉

なかなか県下に全部っていうことは私どもが考えるのは難しいのですが、やはり、住民の方と直接その目で見て感じるということが大切で、それらを重ねていくということはいかに重要かということ、寶澤先生と研究しながら感じているところです。このように、健診事業にきちんとメニューとして入っていくことも大きいことかなというふうに、実施しながら感じております。さらに地元の先生方との共有も非常に大切だということを感じておりますので、その辺りも PR していきたいと思っております。

〈小坂会長〉

ありがとうございます。それでは片倉委員お願いします。

〈片倉委員〉

はい。登米市の元職員の1人として、現在私は、ボランティアで健康教室を実施しています。そうした時に、健診が始まるというと、10人なら10人皆がナトカリ測定を意識して、野菜とか塩は去年こうだったから、今年はもう少し少なめにする、今まで4.8だったのを、2.8位まで下げたいとか、そういうふうな意欲がそっちこちの健康教室に行くと聞こえてきますので、寶澤先生が最初にやってくれたことで住民の行動変容が起きているんだなど、やはりこういう保健事業というのは、やりっ放し、花火を上げるだけじゃなくて、どんな形でもいいから、継続して市民に浸透していくというのが、この目標をクリアできる、目指せるものなのだというのを、寶澤先生のナトカリ測定から学ばせていただきました。ありがとうございます。

〈小坂会長〉

ありがとうございます。例えばいろんな所に広めるに当たってですね、レンタル、もし買うといくらするのかとか、必要なのはスポット料でいいのですかね。その辺ちょっと説明を寶澤先生からしていただけると、医師会の先生方にも少し興味を持っていただけると思います。

〈寶澤委員〉

ありがとうございます。これ研究用の機材で1台20万円です。高いのですが気運が盛り上がりれば廉価版も作りやすくなるということでもあります。東北大のCOIで、大体200台ぐらい持っておりまして今年で事業そのものは終わるのですが、どこか住民の方で測りたいという方がいらっしゃれば、お貸しするようなことができるのではないかなというふうに思っています。ちなみに、片倉先生、佐々木先生もおっしゃったとおり、全部の町で、無関心層の方も健診を受けに健診の現場に来るので、塩に興味を持っていなかった人に直接目の前で数字を突き返すという方法は無関心層の方々へのアピールにはなったのかなと

いうふうに思っています。こういった話、このみやぎ健康 3.15.0 宣言も含めて、意識が高まったときにじゃあどこに行ったら測れるんだろうかみたいところに、つなげていくのは大事なかなと思っています。ちなみに、この COI 事業で、成人病予防協会さんと御一緒しまして、彼らに測定ノウハウをお伝えしたので、協会さんが健診を担当してくれるところであれば、測定が可能で、大崎市が今年 1 万 5000 人測ったのと、七ヶ浜町も去年一昨年と測定をしていました。あとはいくつかの企業さんでも測定をしていまして、県内で年間に 5 万人位、特定健診の現場でナトカリ比を測っているという、そういった状況になっています。

〈小坂会長〉

各委員の中でも、購入して、あるいはレンタルして協力したいというところもあるかもしれませんが、協会けんぽの佐藤さんどうですか。

〈佐藤委員〉

今のお話の中でちょっと何か協力できないかなと私も考えたのですが、私共、今、扶養家族の健診利用者が少なく、街角健診というタイトルで、イオンとかですね、そういったスーパーのようなところをお借りして、家族の方に健診を受けてもらうように準備しております。そういったところで、この検査をやらせてもらえるといいなと今思いました。扶養家族の方、どちらかというと女性の方が多いので、そういう方々に塩分に興味持っていたら、そのまま家庭に持ち帰っていただいて、そうすると家族全員のためになるのではないかなと思いましたが、健診の実際の実働部隊は先ほど名前が出た健診センターもあるんですけれども、そういったところと、協力していただければ、ぜひお願いしたいなと思っておりました。以上です。

〈小坂会長〉

薬剤師会の金田さん、今、薬剤師会の方で、例えば広島だと薬局で PCR 受けるみたいなこともあるし、それからお達者健診とか介護予防のチェックリストをやったりとか、今薬局が薬以外を処方する薬局みたいな話で、何か薬剤師会として何かこう考えられたりしていることがありますか。

〈金田委員〉

大変興味深いなあというふうに思っています。各薬局にもし置ければ、ある一定期間、例えば「薬と健康の週間」ということで活動する期間があるのですけれども、その期間お貸しいただければ、各薬局で、そういったこともできるかなと思ったのと、ちょっとコロナで今やっていないんですけれども、薬剤師会として健康フェアみたいにして、健康のいろいろな啓発活動も毎年行ってきているので、そういう場であるとか、あとは患者さんが、住民の方が自分で採血をするっていうのを、先生にコレステロールとかですね、ヘモグロビン A1c

を機械で測るという活動をしているので、その中の一つとしてできるのであれば、非常に有意義なんじゃないかなと思っています。なので、機械をお貸しいただけるルートが分かるとういいなと思いました。ぜひ具体化できるといいなと思います。よろしくお願いします。

〈小坂会長〉

ありがとうございます。高血圧の薬を処方されている人とかすぐわかるでしょうから、薬剤師会方がそういうところで見つけて、栄養士会の方とかにつなげていただければと思うのですが、高橋会長、何か栄養の観点からですね、あとナトカリも含めて、何かコメントありますか。

〈高橋委員〉

そうですね、宮栄連としてではないのですが、名取市として、今減塩のプロジェクトというのを、やっております、その時にですね、やはり委員の先生方がおっしゃっていたとおり、どれ位塩分を取っているかというのは、やっぱり目に見えてわからないと、行動変容に移せないのはとても実感しているところでして、宮栄連自体でも、減塩の活動をこれからどうしていくかっていうのにも取り組んでいるので、委員の先生方がおっしゃるとおりに、もしそういうルートなど、情報を各市町村に提供もできるかと思いますので、ぜひいろいろ教えていただきたいなというふうに感じたところです。

〈小坂会長〉

ありがとうございました。板橋先生いかがですか。

〈板橋委員〉

私よくわからない部分もあるのですが、例えば、健診の時に使うとすると、健診では尿を取るタイミングが決まっているわけですね。早朝尿の中間尿を取るということになっていますから。そうすると、このナトリウムとカリウムのバランスといいますか量は、どの程度前までのことを反映するのとか、そういうことが私まだちょっとよくわかっておりません。一般の人に目で見えて数字でわかるので理解しやすいと思います。もし具体的にどこが異常でどうなのかという、そういう所がわかりましたら、宮城県医師会は健康センターを持っていますので、採尿しているわけですから、その時にスポット尿でよいのであれば、それをやれば、健診を受けた人は大変参考になるかなというふうに思いました。それがうまくいけば、人間ドックを実施している所が宮城県の中で約10カ所あると思うので、高い機械じゃありませんし、そういう所で使っていただくと、かなり県下といいますか、広く行き渡るのではないかなと思って大変興味を持ったところです。

〈小坂会長〉

寶澤先生、少し補足お願いします。

〈寶澤委員〉

中途半端な説明で申し訳ないです。基本的に先生おっしゃられるとおりで、尿なので、データそのものに日格差があり、早朝の方が少し高く、日中少し下がってくることはあります。24時間蓄尿の相関でいうと、ナトリウムそのものだと0.6とかその位になると、24時間蓄尿とカリウムとの相関は0.9、当然なのですけれどもかなり高いレベルになります。ただ、あとは先生、多分御懸念だと思うのですが、もちろん利尿薬を飲んだり、あと原発性アルドステロン症とか、ああいったところのバックグラウンドもある人は、低く出ても危ないとかそういったことはありますので、もちろん特に治療されてる方についてはお医者さんと相談しながらという条件付きにはなるのですが、繰り返して、登米でやってるのは同じような時間帯に測定してるものが、前の年すごく高かった人がすごく頑張るとか、そういったことが見えることと、有効性という意味でまだすごく弱いのですけれども、全く同じ年齢の人を3年続きで見たレベルで、年齢が一緒なので基本的に血圧が上がるはずの方々の血圧が、少しずつその3年間で下がってきたというところまで見えて、去年すごく期待したのですが、実はコロナの影響で、多分測定時期がずれて、ちょっと登米市の血圧が上がって、最終的にどうなっているのかというのはまた今年見ているところなんですけれども、おそらく塩のことで、野菜のことを意識して血圧が上がるわけではないと思っているので、それなりの有効性があるのではないかなと思っています。実際下がっているということまでですね。

〈小坂会長〉

ありがとうございます。

〈小坂会長〉

高橋会長コメントをお願いします。

〈高橋委員〉

寶澤先生にちょっと教えていただいたかったですけれども、ナトカリ比は、大人の方、成人の方々が主だと思うのですけれども、お子さんたちのデータはあるのでしょうか。

〈寶澤委員〉

まだですね、子供達のデータを取っていないのと、実はまだナトカリ比には基準値そのものがなくて、大体今関係する人達と話をすると2前後じゃないかという話があるのですが、子供にとって、どのぐらいがベターなのかベストなのかは、恐らく大人と子供と栄養摂取基

準あたりから算出すると大体のところは見えるとは思いますが、まだ子供のデータをナトカリ計を使って分析はしてないです。3世代のデータとか見ると、尿をもらっている人達から少し見えてくるかもしれないのですけれど。だからそこはまだ僕もちょっとわからない状態でございます。これは東北メディカルメガバンクとして、名取市にそのうち御報告に上がります。

〈高橋委員〉

ありがとうございます。

〈小坂会長〉

ほかの皆さん、何かコメントはありますか、よろしいですか。今は、もう見える化が当たり前になってきて、私 1 万円くらいのスマートウォッチですけど、酸素飽和度から睡眠から全部取れますし、来年はもう血糖値まで測れるようになりますので、もちろん心電図も測れますし、こういう見える化というのはどんどん進んでいってそれをスマートフォンに、パーソナルヘルスレコードとして蓄えていくというのが、これからのある意味戦略で、そのために、ワクチンパスポートというものもですね、今は紙なのですが、それをスマホに入ると、これを境に、いろんな情報を安全なブロックチェーンリストを使って安全に、スマホに入れていくと。そうすると何がいいのかというと、患者さん自身が世界中と繋がってですね、患者主導の研究というのがいずれ出てくるという形で、そういうような青写真を描いて、今、ちょっと経団連さんとも折衝しているところでございました。ですからこういう見える化というのはいずれ進むし、そういうものも検討していただくと宮城発で、いろんなよい物ができるかなと思って楽しみにしていますので、ぜひお願いします。宮城県庁の方もいろいろ対策をしてくださっていて、私も知らないことが多くて、ありがとうございました。ちなみに動画の方は結構、見てもらっているのですかね。

〈事務局〉

動画の方は、知事CMと有識者の方々のインタビューを載せさせていただいております。視聴回数としましては、現時点で、有識者の方々の動画につきましては、合わせて 630 回程度、あとCMにつきましては更に半分程度 300 回程度に留まっておりまして、改めまして、もう少し我々も頑張る必要があるなという認識を持った次第でございます。

〈小坂会長〉

皆さん、今日家族で見てもらえば、わかるかなと思います。

〈寶澤委員〉

県庁のホームページに載っているのですか。ユーチューブでも見られますか。

〈事務局〉

県庁のホームページや、ユーチューブでも見られます。

〈寶澤委員〉

何のワードで検索すると引っかかってくるのですか。

〈事務局〉

「健康サイコー」で検索していただきますと、その他関連のいろんな動画が出てきます。「健康3150」と打っていただければ。

〈寶澤委員〉

点無くてもいいですか。

〈事務局〉

無くてもいいです。

〈小坂会長〉

県庁の職員に1回見てもらうだけでも大分よいと思います。

ありがとうございます。皆さん本当にいろんなことされていて、これ何か今までやっていただいていることにコメントとか質問よろしいですか。

板橋副会長お願いします。

〈板橋委員〉

両括弧1の、有識者ワーキングについての所で伺えばよかったのですが、これ非常に興味あります。というのは、コロナ禍で、この2年間は、社会生活も家庭生活もガラッと変わってしまいました。そういう中で、コロナの影響がどうのこうのという非常にたくさんの情報が流れるのですが、実際にそれが生活の場において、どの程度影響してるかというデータは一切今までのところはありません。その辺を教えてくれるものとしてもこのワーキンググループの、アンケートと評価に非常に期待したいと思います。恐らく、素晴らしい報告になるのではないかと思うので、ぜひ力を入れてやっていただきたいと思います。

〈小坂会長〉

寶澤先生、更にプレッシャーがかかったと思うのですが、今の板橋委員の言うことは、本当に貧困の方とか非常に影響を受けてる方にどんな形でアプローチできるかというのも、難しい課題だと思うのですが、寶澤先生、決意を語っていただきます。

〈寶澤委員〉

県の予算の関係もあって、収入で層別化とかそこまではなかなか難しいだろうなとは思いますが。ただ、調査の中で、コロナによって何が変わったかとか、そういったところを聞かずに、このアンケート評価ということはできないと思いますので、何か評価項目とか、コロナの影響をどう、あんまり長くできないけれど、入れ込むのかとか、そういったあたりは結構議論になる部分かなというふうに思います。恐らく、このワーキングだけではなくて、よその先生方へもヒアリングとかしていかなきゃいけない話なのではないかと思いますので、私がというわけではないのですが、皆で議論していかなければならない項目だと思っています。ここからも強い期待を受けてるワーキングだということを皆で共有したいと思います。

〈小坂会長〉

ワーキングの方だけでなく、例えば薬剤師会の方でも、例えば鬱病の薬が伸びているのではないとか、あるいは精神科の先生方の売り上げとか何かいろいろな、その先生方各委員の方でも何かそういう繋がるようなコメントがあれば、ぜひお寄せいただきたいし、先生方からも、これについてぜひ今回入れて欲しいみたいなものがあれば、ワーキングの方で検討していただくのがいいのかなと思っておりますのでぜひよろしくお願いします。

それでは、その他、事務局から何かございますでしょうか。

〈事務局〉

特にございません。

〈小坂会長〉

ありがとうございます。

私の方から 1 点だけ。介護保険の介護と保健事業の一体化という話が国から出てきて、結構各市町村で、高齢者の保健事業が進んでいるのですが、各市町村でやっぱり長寿と保健・ヘルスの部分でこれまでほとんど一体でやったことがないので、本当にどっちかしかやっていないというのが現状なのですね。だからまず、県庁から見本を見せていただいて、そこは本当に長寿の方と一体となってやっていくということで、中身は多分、高齢者の部分も、若い人の部分も、共通の部分もないわけじゃないと思っています。ですから、そこと連携をとっていただいて、進めていくというのが、今後求められることでしょうし、昨日聞いたところはもう行政を、もう全部部署をいじって、組織改革までやってこれに臨んでいるところもありますので、ぜひその辺も含めて、県庁の方でリフォームしていただくということを私の方からもお願いしたいというふうに思っております。

各委員の先生方何かこの際言っておきたいこととかありますか。

〈片倉委員〉

すみません。現在は宮城県栄養士の会の会長はしているのですが、元登米市の職員の1人ということで、やはりこういった事業が出るたびに、各健康づくりについては、県だけが一生懸命頑張っても、各自治体のヘルス部門の担当者がしっかりと動いて、そして、県民一人一人、自分の預かってる町民、市民一人一人にこの目標が繋がるような事業展開をしていただかなければいくらいすばらしい目標値を立てても目標はクリアできない。私は35年間登米市の職員をしていましたが、やはりなかなか変わらない。結局、末端の自治体の担当者が動いてくれないから、伝えてくれないから、変わらないっていうのを、つくづく今現在感じているのです。それで今OBの人たちで立ち上がって登米市は動こうとしています。もう各町に入って、地道にやろうということで動こうとしていますし、これについては市長からも、予算は取ってもらいましたので、どんな結果になるかなのですが、一生懸命本当素晴らしいものが出て、各自治体が動いてくれないと、効果は見えないという部分があるのでこの健康づくりについては、ぜひ、特に高橋さん宮栄連の会長さんですので、県の栄養士にも叱咤激励をして、食改の推進員さん達を巻き込みながら、食に関したところはお願したいなと思います。以上です。

〈小坂会長〉

ほかの皆さん何かありますか。よろしいですか。

先日、白石市が、子供達のメタボの話予算をとってやりたいというふうに言っていて、あんまりそういった所はないのではないかなと思うので、県としても、ぜひ、支援いただきたいし、歯科医師会の方でも万全の体制で支援していただきたいなというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願いします。泉谷委員何かコメントございますか。

〈泉谷委員〉

はい。今のお話で白石市について聞きたいということでしょうか。

〈小坂会長〉

白石市が子供たちの食を含めて、その辺を一生懸命やりたいというふうに言っていました。今全国で、子供の食みたいなのが予算も取れないし、首長に興味を持ってもらうのが難しいのですが、かなり危機感を抱いてるみたいで、そんなに数値は悪くはないんですが、ぜひ、その辺御協力をいただけないかと、そこでまた、お話を別ルートでしようかなと思ったところです。

〈泉谷委員〉

わかりました。当会としては、やはり白石地区の千木良先生が担当してるのかな、会長としての立場もありますので連絡を取って、その辺を検討させていただきたいと思います。よ

ろしいでしょうか。

〈小坂会長〉

ありがとうございます。これもメガバンクのルートで来てみたいなので、あとで寶澤先生に依頼を出そうとちょうど思ったところで今日お会いできたので、この機会にお話ししておきます。

そういった形ですね、各市町村で、東松島市とか、あるいは女川町とか、富谷市とか。富谷市はほとんどの健康指標でトップですよ。富谷市はスイーツで、ナトカリ測定の効果もひょっとしたらいいかもしれない。SESが一番高いというのもあるのでしょうかけれども、そういうところでやっぱり見本を見せていただくというところで、総括的にやらなくていいから、各市町村、うちはこれをやるんだみたいなことを、出していただいて、それも本当に県の方で、全力で支援していただくと。目に見えるような成果が、コロナ禍で上がればですね、宮城モデルとして出していけるかなと楽しみにしておりますので、今後とも本当に各委員の方々もですね、ちょっと一歩踏み出してもらって、次回の時に、各委員のところでの活動なども御報告いただけるようになればいいかなと思っています。中鉢委員コメントをお願いします。

〈中鉢委員〉

大変いろいろありがとうございました。私どもはですね、やはり健康、コロナ禍における健康づくりの取組ということを考えますと、まず第一に、コロナに対しての対策・対応が、本当に教育保育施設は密の塊みたいなもので、0歳児1歳児をマスクかけて保育をせざるを得ない状況だと。それは、健康づくりっていう面で考えれば、コロナ対策を十分にして、乳幼児期のころからしっかりと、食に対する考え方を教え込んでいかなければいけないと思っております。保育の大きな柱に食育というのがございます。各保育協議会の施設400か所ほどあるのですけれども、毎年の研修では、やはり管理栄養士・栄養士がしっかりと食べ物の大事さをお伝えしていくと。これもですね、口だけでなく、いろんなパネルシアターを使ったり、お人形さんを使ったりして、小さな子供たちが理解できるようにやっております。そしてまた県の教育委員会で、ルルブル運動ということで、きちんと食べると、しっかり寝ると、よく遊ぶ、それで成長していくのだというふうに、教育保育施設、未就学児なのですが、保護者の皆様にもしっかりと伝えております。しっかりと5歳までは8時までに寝かせてくれ、朝は6時に起こしてくれと、それで生活リズム、基本的な習慣を身に付けて、しっかり食べて、きちっと育っていくという方向で宮城県保育協議会ではやっております。今日は大変ありがとうございました。

〈小坂会長〉

いろいろコロナ禍で大変だと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。ちょっと1個

だけ、某北の、塩分を結構取ってる都道府県のところに講演に行ったときに話を聞いたのですけれど、京都に修学旅行に行って、皆「味が無い」と言って大騒ぎになった。つまり、やっぱり小さい頃に濃い味に慣れ親しんでしまうと、そこから脱却するのはかなり大変だなと思うので、今日、子供達のナトカリみたいな話も出ましたし、そういったこともやっぱり非常に大事なかなと思っていますので、ぜひその辺も含めて、今後この子供たちの対策ということも含めて、ぜひ、検討させていただければというふうに思います。

ほかによろしいでしょうか。ちょうど1時間経ちましたので、本日はこれで終わりにしたいと思います。

事務局の方にお返しします。

〈司会〉

小坂会長、議事進行どうもありがとうございました。委員の皆様には御多忙の中、長時間にわたり御審議、御議論いただきまして貴重な御意見をどうもありがとうございました。

なお、本日の内容につきましては、議事録として委員の皆様方に後日お送りさせていただきますので、内容の御確認をよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和3年度第1回みやぎ21健康プラン推進協議会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。